



喜多埜

茶屋町ジャズフェス

今月二十三日、二十四日の両日、茶屋町各所で関西の大学生らによる、「西日本カレッジジャズフェスティバル」が開催されます。

この催しは、近年の再開発などで茶屋町をはじめ、梅田界隈に大学のサテライト校などが増えた事により、**急激に学生のまちとなりつつある現状を踏まえ、それら学生同士の交流を深め、ジャズを通した賑わいを生み出すまちづくりの一環として企画されたものです。**両日とも**お昼の十二時から夕方頃まで**茶屋町の五ヶ所で各大学のジャズバンドによる演奏が行われます。当宮の御旅社でも、大阪音大、大阪芸大、関大、摂南大、同志社大、阪大、兵庫県立大のバンドの皆さんが三十分ごとに演奏をされます。ぜひ当日はジャズを聴きながら、お参り下さい。

七五三のご案内

当神社 御本社(神山町)では七五三のご祈祷を受付けております。まずはお電話で**ご予約**ください。

七五三は**数え年**(満年齢に一歳足す)で計算します。

- ・三歳 平成廿三年生(卯) **女兒**(又は**男児**)
- ・五歳 平成二一年生(丑) **男児**
- ・七歳 平成十九年生(亥) **女兒**

御本社 ○六・六三六一―二八八七

なお、茶屋町の御旅社においては、少人数親族含め五名までであればお受け付け出来ます。

白龍社 御修理事業

今夏、八月二十二日に放火された当宮御本社の末社、白龍社ですが、**今月から全面的な修理**に入る運びとなりました。この御修理事業におきましては、当宮崇敬会をはじめ、地元氏子の皆さまから早々に御修理の為の浄財を御寄進頂き、**心より御礼申し上げますばかりです。**今後、工事に際しまして、ご参拝の皆さまには何かとご迷惑をおかけ致しますが、何とぞご理解ご協力の程お願い申し上げます。

神社豆知識「紙垂」

神社の鳥居や社殿、または神棚などに掛けられているしめ縄には、雷のような形に折られた白い紙がぶら下がっています。

これは紙垂(しで)という神祭具の一種で、この紙垂の掛けられているところは**神聖な場所**であるという事を示すとともに、**悪しきものが入り込まないようにする為のお祓いの意味**もあるものです。

元々は楮の樹皮から作られる繊維の**木綿(ゆ)**に現在のコトンの木綿とは別のものを神さまへの捧げ物として用いられていたものが原初の形で、それが後世にこの木綿のあるところは**神さまのおわすところ、邪氣の祓われるところ**という認識が広まり、更に紙の製法が伝わりと楮を混ぜた紙が神祭具としても使われるようになった事から、現在の紙製の紙垂が広く用いられるようになりました。

この紙垂はしめ縄に掛けられる以外にも、御神前に立てられる「**御幣**」や、お祓いの際に神職がバサツバサツと振る「**被串**」も和紙製であり、広義ではこれらも紙垂の一種です。

またこの紙垂の形ですが、室町時代の『不動利益縁起絵巻』には御幣の形で既に見えており、**形状自体は昔から同じ形**のようですが、現在多くの神社で見られる紙垂は、京都の吉田神社で用いられていた事から**吉田流**と呼ばれています。他にも伊勢の度会流、神祇伯王家の白川流、また地方によっては独特の形状のものもありますが、今ではあまり目にする事はありません。

なお、しめ縄に紙垂を付ける場合には、しめ縄一本につき、四枚の紙垂を掛けるのが倣わしで、そこから**四垂**と書いて「しで」と読む場合もあります。

紙垂は**神道独特のもの**であり、今も昔も、「ここに神さまはおわす」と私たちに示す大切な神祭具です。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

